

子どもの詰め込みに NO!

保育園を考える親の会

「子どもの詰め込みに NO と言う緊急アピール」120 人の賛同メッセージ集〈抜粋版 1〉

① 東京都の認可保育園を利用している保護者は、面積基準の緩和に反対しています。

「戦後の混乱期にやむを得ず最低限で作られた最低基準をさらに改悪することは時代に逆行し、世界都市東京として恥ずかしいことです。子どもを安心して預けられない社会、子どもを産みにくい社会が加速します。子どもは荷物のように詰め込めるものではありません。保育園は、一人ひとりが人間として大切にされ、受容され、個性に合わせて育ち、育てられるための大切な空間です。子どもの視点で見たら、待機児童の解消策はもっと他に考えられるはずで、大人はそこに知恵を使う責任を担っています。最低基準の緩和に強く反対します」

「面積基準の緩和に反対いたします。育児休業中に見学した認証保育園はまさにすし詰めでした。7 畳大の部屋で 0~2 歳児・6 人を 2 人の大人（保育士）が過ごしていました。アパートの半地下で、場所がないのでおむつはカーテンレールにぶら下がっていました。ここに預けるくらいなら、月 25 万円以上になりますが、ベビーシッター利用で職場復帰しようかと真剣に考えました。すべての認証が「問題ない」などとはとても言えません。もちろん、待機児童の問題は深刻です。恵まれた環境に子どもを預けている認可園の親が「詰め込み反対」を唱えるのはわがまに映るかもしれませんが、対案として考えていただきたいのは、認可保育園の保育料自己負担額を上げることです。もともと福祉目的だった保育園ですが、今は大半が就労支援になっています。低所得ではない家庭からもっと高い保育料を徴収し、認可園を増やすための財源に充てることはできないでしょうか。私は、今のように質の高い保育園を利用できるなら、今の倍、払っても惜しいと思いませんし、同じように考える親は他にもおられます。」

「現在 2 歳児クラス（14 名）に子どもが在籍中。現在の教室に変わったときはその狭さに愕然。お昼寝の時間はお友達のお布団を踏まないで自分の場所にいかれない。それで落ち着かないのか、現クラスになってから我が子のお昼寝の時間が 1 時間弱短くなってしまった。雨の日は廊下にはみ出して遊んでいる。上のクラスも定員増のため、ホールをつぶして教室にしたと聞いている。そのためホールを運動場として使えない不便さがあるそう。なお杉並区立保育園は各保育園で布団のサイズが異なる。それは、人数分のスペースを作るために布団を独自サイズで作っているから」

「子どもたちが健やかに育つためには、ゆとりのある環境が必要。施策を考える人たちはもし自分の子どもだったら、孫だったら、と想像して考えてみてください。お願いします。認可保育園を目の敵にしないで。質の高い保育をしてくれています。料金をもっと上げて、本当に困っている人にだけ格安の保育料にすれば良いのです」

「最低基準緩和（詰め込み）は最後の手段にしてほしいです。たしかに、待機児童問題は各自治体にとって焦眉の課題です。しかし、政策担当者でない私にすら、他にもやれることはあるはずにみえます。幼稚園の統廃合や、4~5 歳分園を近隣小学校に新設、0~2 歳児だけの認可園を設置できるようにする、高納税者世帯の保育料値上げによる財源確

保で分園を作っていく。それぞれに制約があるから実行が難しいのだと思います。しかし、だからといって、物言わぬ子どもを詰め込むのが公益につながるのでしょうか。ただ安易だから詰め込むだけのようにみえます。詰め込み保育園が多数派になれば、それをみて、親（多くは母親）が仕事をやめてしまうのではないのでしょうか。そしてそんな状況を知っているから、子どもを産みたくない人も減らない。結局、少子化を止められなかった時代に後戻りすると心配しています。待機児童解消が少子化につながるという皮肉な結果になってほしくないです。」

「認証保育所で10年間何の問題も行っていない、と主張する山口洋氏、鈴木亘氏はじめ、詰め込みを推進する東京都は、園庭があるなし、一人あたり面積5平米以上、5平米未満～3・3平米以上、3・3平米未満～1・65平米以上、等の区分で、運動能力に差があるなし、発達障害やイジメの出現率に差がないのか、その他のトラブルの多寡などとの相関関係の有無、その後の小学校でのリカバリーの可否など、データ取って示して欲しい。緩和したい方にこそ、立証責任があるというのがアセスメントの基本では？子どもたちが言葉にできないのを良いことに、将来の日本人に禍根を残しかねない施策を真っ先に提案する人たちは、自分の営利目的しか頭にないのか？憤りと哀しみでいっぱいです。詰め込みはやれる施策をやりつくしてから考える最後の手段という文京区長を支持します。」

「昨年4月になんとか当時5ヵ月の娘を認可保育園に入れることができましたが、そこに到るまで、約20の認可、認証、無認可の保育所の見学をしました。そこで見た認可園以外の”保育”の多くは、狭いスペースに乳幼児を詰め込み、走り回らせることも出来ず、お散歩と称して無理やりベビーカーに乗せて近くをぐるっと1周して終了、というようなものでした。こういった”保育”を見て愕然とし、「これは都に何とかしてもらわないか」と思いました。今、使われていない小中学校の校舎などを再利用して、保育園を増やすわけには行かないのでしょうか？」

② 認証保育所を利用中の親も、詰め込みには反対です

「現在、文京区の認証保育園に子供を通わせています。最初に見学に行った時には、あまりの狭さに「ここはちょっと・・・」と思いましたが、認可保育園の空きがなく、入れてもらえるだけでも有難い、と入所を決めました。同じ部屋を1歳児から2歳児が共有することで面積基準をクリアし、雨の日の混雑と人いきれは想像以上、お昼寝の時は保育士さんたちが歩く隙間もないほど。保育士さんから時々ほかの子供から噛みつかれた、怪我をしたなどの報告も受けますが、親からすれば、報告をそのまま承諾するしかないような立場です。子供を単に預けるのではなく、親も一緒に育ちながら育てる場所。どんな親も、保育園にはそのような役割を求めています。ただでさえ保育園に預けることに罪悪感を感じる母親が少なくない中で保育園の質を落とせば、職場復帰をためらう母親が増え、産み控える女性が増えることにつながり、少子化対策にとって逆効果になることは明らかです」

「認証ですが、経験豊かな保育士が多数配置されており、子供たちも伸び伸び過ごしていますので、あえて認証に預けています。待機児童解消も結構ですが、保育の質が保たれなければ意味がないと思います。」

「三番目の1歳児が姉の通っている認可保育園に入れなくて、離れた場所にある認証保育所に預けざるを得ない現状にある。二つの保育園は自宅から見て反対方向にあり、毎日、大変な思いをしている。保育園の民営化で保育士の平均年齢が下がって来ており、保育サービスの質の低下が危惧されている。そこに、子どもの詰め込みという事態になれば、その危惧はさらに現実的なものになる。待機児童問題は、施設の拡充と保育士の増員以外に解決の途はない。我々保護者は、詰め込みを要望したことは一度もない」

③ 都外の保護者からも反対の声が上がっています

「子どもの詰め込み」はNOです。私達は昨年4月に息子を保育所で亡くしました。

「認可外保育施設指導監督基準」を遵守せずに事故が起きています。子どもを詰め込むことでのリスクを把握しているのでしょうか？子どもの命を最優先に考えて下さい。」

「待機児全国一の横浜市民です。(保育運動に係わっている保護者 OB) 横浜市ではすでに、実態として2.46㎡という詰め込み状態が常態化しています。私の会社の女子社員がまもなく出産で1年間の育休明けに認可を希望していますが、育休明けでも難しい位に待機児問題が深刻化しています。横浜市も中田前市長の頃とは違い、保育所の増設に力を入れるようになってきましたが時すでに遅し。の感があります。(株)運営の認可の不正もかなりある状況下ですが、事業所内保育所の増設、都市公園の有効活用等、保育以外の法の弾力運用を本格的に考えないといけない時期にきています。」

④ 小学生以上の子どもを持つ保護者、将来子どもを持ちたい方に加え、お子さんがいない方からも反対の声があがっています

「日本で最も豊かな税収と人口を誇る自治体が、次世代を担う子どもの保育環境を先進諸国の中でさらに最低のレベルに押し下げる。「日本の首都」として世界に胸をはれる保育政策とは思えません。人間を大切にする、乳幼児からの教育こそが大切という国際的な潮流にも反しています。有識者の方々の自治体の職員の皆様の良識に再度、期待をいたします」

「東京都が行おうとしていることは今の日本に最低限必要な対策に逆行しています。どうか、詰め込みは、やめてください。そして、一度、雨の続く日に保育園を訪問してみてください。現実を見ていただければ、私たちが無理なお願いをしている訳ではない。ということを理解していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。」

「会社で人事の仕事をしていますが、女性活用ということがこれだけ世の中で言われていながら、多くの子どもを持つ女性社員が保育園に子どもを預けることに大変苦労されていると感じています。待機児童を減らして希望する人が子どもを保育園に預けられることは、女性活用、女性の就労継続を可能にするためにもぜひ必要なことですが、同時に私達の社会の将来を担う子どもたちの育成には配慮と投資が必要と考えます。保育所の面積基準の緩和といった方法ではなく、より子どもたちの発達と育成に配慮をし、親が安心して子どもを預けられる施設を増やし、子どもの育成と女性の就労を支援するとともに、優良な保育所を公的に支援することで保育を産業として発達させ、また保育の分野での雇用も拡大するといった方法が長期的に社会のためになるのではないかと考えます。」